

資料編

【地形地質編】

【ボーリング調査結果及び柱状図】

ボーリング柱状図 (No. 1)
<p>対象敷地の山側に位置しており、約5m で地山の斜面になる。そのため表面の盛土(Bs)は-3.10m までで薄い。盛土(Bs)のうち-1.00m まではコンクリ片を多く混入したシルト混じり礫で、以深はシルトの割合の多い礫層になる。盛土(Bs)の下には旧表土(Ts)と思われる黒ボク状の有機質土層が1.70m の厚さで認められる。-4.80～-6.10m は御嶽山起源のローム(Lm)と思われる火山灰質粘性土で、N値は1～2 である。-6.10～-13.60m は崖錐1(dt1)で礫混じり粘性土と礫質土が互層になっており、-9.20～-11.80m に礫質土を挟むものの上下の礫混じり粘性土は軟らかく、N値は4～16 である。-13.60m 以深は塩嶺累層の凝灰角礫岩で、-16.80m までは風化塩嶺累層(Enw)で全体として軟質であり、岩盤区分はD 級に区分される。-16.80m 以深は塩嶺累層(En)で凝灰角礫岩の基質が硬質になり、棒状コアで採取され、N値も50 以上で岩盤区分はCL 級に区分される。</p>
ボーリング柱状図 (No. 2)
<p>現況の清掃工場敷地の谷側で、盛土ののり肩に近い箇所である。表面の盛土(Bs)は-7.80m まで確認され、このうち-4.90m まではコンクリート片の混入の多い礫質土で、マトリックスは有機質シルトよりなる。-4.90～-7.80m は有機質砂質シルトを主体とし礫を混入する。盛土(Bs)の下の旧表土(Ts)と思われる黒ボク状の有機質土層は、1.00m の厚さで認められる。ローム(Lm)は-8.80～-9.60m に確認され、N値は2 である。-9.60～-21.70m は崖錐1(dt1)で、礫をほとんど混入しない均一な粘土～砂質シルトよりなり、全体的に還元状態で、一部腐植土を挟んでいる。-21.70～-26.55m は崖錐2(dt2)で強風化した凝灰角礫岩状であるが、岩盤組織は乱れが顕著で、風化礫を主体とする。崖錐1(dt1)と崖錐2(dt2)の境界は、土質、色調とも明確に変化している。N値は17～46 でバラツキが大きい。-26.55～-35.00m は風化塩嶺累層(Enw)で下部ほど硬質になるが、全体的に褐灰色に変色しており、岩盤区分はD 級に区分される。-35.00m 以深は塩嶺累層(En)で変色はあまり見られず、棒状コアで採取され、N値も50 以上で岩盤区分はCL 級に区分される。</p>
ボーリング柱状図 (No. 3)
<p>清掃工場敷地南側の駐車場で実施しており、盛土上部の敷地に比べて約8m 低い谷側で、盛土ののり肩に近い箇所である。表面には駐車場の舗装が盛土(Bs)として0.50m 確認される。盛土(Bs)の下には旧表土(Ts)と思われる黒ボク状の有機質土層が、1.40m の厚さで認められる。ローム(Lm)は-1.90～3.00m に堆積し、N値は2 である。-3.00～-17.45m は崖錐1(dt1)で、礫をほとんど混入しない均一な粘土～砂質シルトよりなり、一部礫混じりの部分がある。-9.90m までは褐～淡褐灰色に酸化しているが、-9.90～-16.60m は淡青灰色で還元状態である。-17.45～-23.50m は崖錐2(dt2)で風化の進んだ小礫を含んだ凝灰質シルトである。N値は13～24 で上部より硬くなる。-23.50～-28.30m は風化塩嶺累層(Enw)で硬質な安山岩転石を含む部分ではN値は50 以上になるが、それ以外の部分ではN値は21～35 であり、全体的に褐灰色に変色していて、岩盤区分はD 級に区分される。-28.30m 以深は塩嶺累層(En)で、若干変色しているが棒状コアで採取され、N値も50 以上で岩盤区分はCL 級に区分される。</p>

ボーリング柱状図

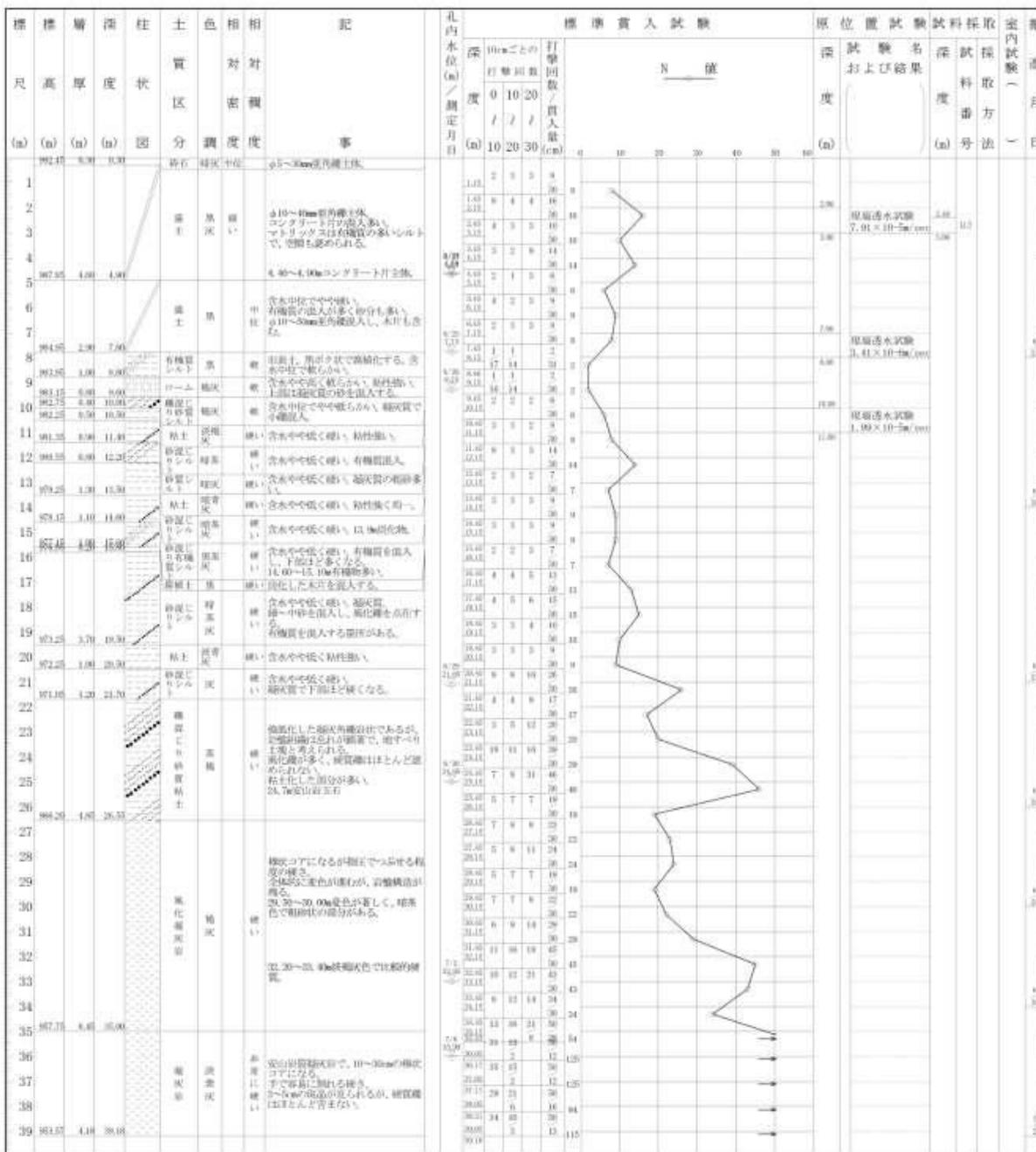
調査名 平成23年度湖周地区ごみ処理施設整備に係わる地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	H24-No.2	調査位置	岡谷市 内山	北緯	36° 4' 4.3"
発注機関	岡谷市	調査期間	平成 24年 6月 21日 ~ 24年 7月 3日	東経	138° 1' 39.2"
調査業者名	株式会社 長野技研 電話 (0263-47-7677)	主任技師	太田 勝一	現代場代理人	コア 下田 力 鑑定者
ボーリング責任者	宮部 正勝	試験機	YBM-2Z	ハンマー	落下用具
エンジン	ヤンマーNF012	ポンプ		自動落下	動増
孔口標高	992.75m	角	北 0° 0' 0" 東 90° 0' 0" 南 180° 0' 0" 西 270° 0' 0"	地盤勾配	
総掘進長	39.18m	度			



ボーリング柱状図 (No. 2)

ボーリング柱状図

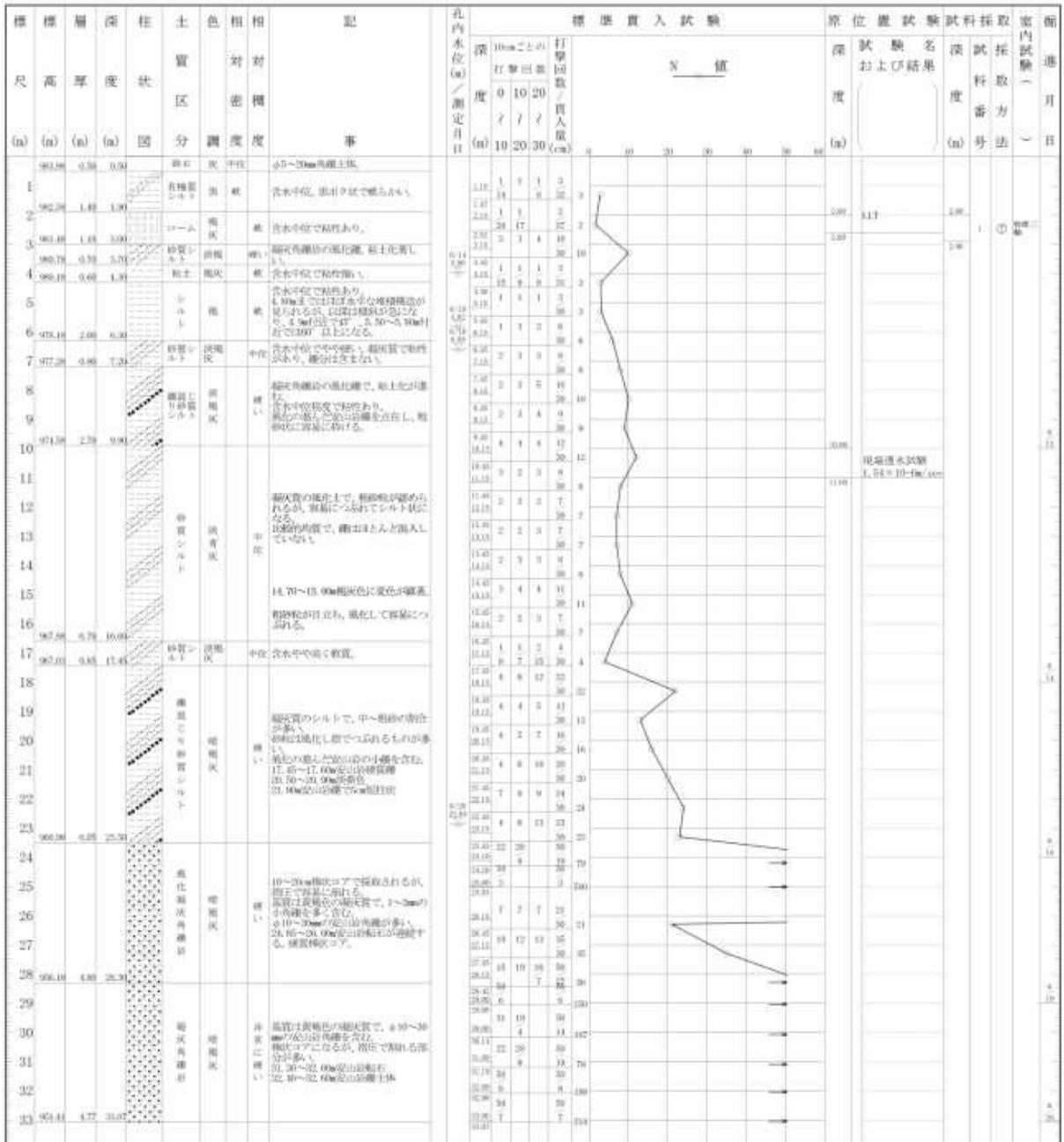
調査名 平成23年度湖周地区ごみ処理施設整備に係わる地質調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	H24-No.3	調査位置	岡谷市 内山	北緯 36° 4' 4.3"
発注機関	岡谷市	調査期間	平成 24年 6月 13日 ~ 24年 6月 20日	東経 138° 1' 40.6"
調査業者名	株式会社 長野技研 電話 (0263-47-7671)	主任技師	太田 勝一	現場入 代理人
孔口標高	981.49m	角 (80) 方	北 0° 30' 西 90° 東 90° 南 180°	コ ア 鑑定者
総掘進長	33.07m	度	0° 0' 0"	下田 力
		地盤勾配	約 西 30° 東 0°	ハンマー 落下用具
		使用機種	YBM-2Z	自動落下
		エンジン	ヤンマー NFD12	動噴



ボーリング柱状図 (No. 3)